

弓削商船高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	校内練習船実習（航海）	
科目基礎情報							
科目番号	3A26			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	商船学科			対象学年	3		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	航海法規（海文堂）、弓削丸完成図書、実習の手引き、実習ファイル、その他配布書類等						
担当教員	森 瑛太郎,加藤 博						
到達目標							
航海・機関に関する運航技術の基礎訓練を他の授業の進捗度合いに合わせて行い、船内生活を体験し船舶職員としての資質を涵養し、国際的な船員を目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
出入港作業		作業を理解し積極的に参加している		作業を理解している		作業に参加していない	
海上交通法規		海上交通法規の概要を理解し実際の状況と関連づけることができる		海上交通法規の概要を理解している		海上交通法規の概要を理解していない	
当直業務（見張り）		当直業務を理解しより多くの船舶を把握できる		他船を発見でき報告できる		他船を発見はできるが報告はできない	
学科の到達目標項目との関係							
専門 A2 専門 E1 専門 E2							
教育方法等							
概要	練習船弓削丸を実際に運航し、当直業務等実船同様の運航の中で、稼働している船内機器・設備を通して基本的な原理、使用方法や管理の仕方について実習を行う。 また、班ごとの船内生活を通して環境の適応及び自己管理能力の向上を目指す。						
授業の進め方・方法	班ごとに教室課業と船橋課業に分けて実習を行う。 各港間の当直業務、出入港作業等実際の機器を使用した実習を行う。						
注意点	十分に周りの危険に注意を払い緊張感をもって実習に取り組むこと。 危険を伴う実習のため指定された服装を厳守のこと。（学則遵守） 養成施設引当て科目（単位）：航海コース [航海計器(0.1),潮汐及び潮流(0.1),地文航法(0.1),電波航法(0.1),船舶の構造(0.1),当直(0.1),操船(0.1),非常措置(0.1),海上衝突予防法(0.1)] 第一級海上特殊無線技士(5時間)						
実務経験のある教員による授業科目							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実習のガイダンス 電波航法の基礎		各種電波計器の原理、基本的取扱いを理解する		
		2週	電波航法の基礎		各種電波計器の原理、基本的取扱いを理解する		
		3週	地文航法の基礎		各種航法、位置決定法を理解する		
		4週	地文航法の基礎		各種航法、位置決定法を理解する		
		5週	操船法		入出港操船法を理解する		
		6週	航海計画の立案		航海計画の概要、潮汐・潮流を理解する		
		7週	航海計画の立案		航海計画の概要、潮汐・潮流を理解する		
		8週	航海計器取扱い法		各種航海計器の取扱いを理解する		
	2ndQ	9週	海上交通法規		海上衝突予防法等交通法規の概要を理解する		
		10週	海上交通法規		海上衝突予防法等交通法規の概要を理解する		
		11週	航海当直		当直業務を理解する 見張りによる他船との見合い関係を理解する		
		12週	航海当直		当直業務を理解する 見張りによる他船との見合い関係を理解する		
		13週	航海当直		当直業務を理解する 見張りによる他船との見合い関係を理解する		
		14週	非常措置		保安応急部署を理解する（防火・防水・総端艇部署）		
		15週	非常措置		保安応急部署を理解する（防火・防水・総端艇部署）		
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					

		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合				
	課題	実技	態度	合計
総合評価割合	40	40	20	100
知識の基本的な理解	40	30	0	70
態度・志向性(人間力)	0	0	20	20
分野横断的能力	0	10	0	10